

2025年3月27日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
 (TEL：078-302-7075)

CDC7阻害剤monzosertibに関するアメリカ癌学会（AACR）年次総会での発表のお知らせ

2025年4月25日から30日まで米国イリノイ州シカゴ市において開催されるアメリカ癌学会年次総会（American Association for Cancer Research Annual Meeting）において、当社が開発中のCDC7阻害剤monzosertib（AS-0141）の非臨床研究に関する発表を行いますのでお知らせいたします。

monzosertibは当社が創製したCDC7（cell division cycle 7）キナーゼの強力かつ選択的な阻害剤であり、現在、日本国内において進行・再発・難治性又は遠隔転移を伴う悪性腫瘍患者を対象とした臨床試験を実施中です。当社は本AACR年次総会において、急性骨髄性白血病（acute myeloid leukemia, AML）治療薬であるDNAメチル基転移酵素（DNMT）阻害薬およびB細胞リンパ腫因子-2（BCL-2）阻害薬とmonzosertibとの組み合わせによる3剤併用効果に関し、新たな非臨床研究の発表を行います。

monzosertibの非臨床研究に関する発表（発表番号：6867）

ポスタータイトル	Triplet combination of monzosertib, a potent CDC7 inhibitor, with DNMT and BCL2 inhibitors is highly active in human AML xenograft mouse models
セッション	Experimental and Molecular Therapeutics
発表日	2025年4月30日（水）
発表者	H. Furuichi, H. Endo, A. Arimura, Y. Nishioka, M. Sawa

アブストラクト：<https://www.abstractsonline.com/pp8/#!/20273/presentation/7524>

以上

CDC7阻害剤monzosertibについて

monzosertib（AS-0141）は当社が創製したCDC7キナーゼを選択的に強く阻害する医薬品候補化合物です。CDC7（cell division cycle 7）キナーゼは、細胞周期において染色体複製開始の制御に重要な役割をしていますが、細胞周期制御が異常であるがん細胞においてCDC7活性を阻害すると、がん細胞が死ぬことが知られています。一方で、正常細胞は、細胞周期が正常であるため、CDC7活性が阻害されても死ぬことはなく、この点からCDC7阻害剤は非常に副作用の少ない新しい治療薬になると期待されています。CDC7は、いくつかのがんで過剰発現していることが報告されており、CDC7阻害薬は、これらのがんの新

しい治療薬として期待が寄せられています。カルナバイオサイエンスでは、特異的な CDC7 阻害剤 monzosertib の創出に成功しており、様々ながんを標的とした画期的な治療薬の開発を目指しています。